

☆ 思考力・説明力を重視した「単元のめあて」を意識し、「授業のポイント」に留意することで、児童が主体的・対話的に学びを深めて、学力の向上が図られるようにしましょう。

※「単元のめあて」枠内の漢字に、ルビを振っている箇所があります。ひらがたと漢字のどちらを使うかは、学習進度などを勘案して指導者で判断して下さい。

(K・・・啓林館, G・・・学校図書, T・・・東京書籍)

学年	単元	単元のめあてと授業のポイント												
1年	上巻⑤	・6月号参照												
2年	上巻⑨	・6月号参照												
3年	上巻⑥ 長さ 同様単元 K9月⑧ T6月⑤	<p>◎単元のめあて(例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">1 mより長い長さの はかり方や計算のしかたを考えて、せつ明しよう。</div> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・p. 89～92 では、巻き尺や ものさしには、「0」の表記のあるものと ないものがあるので、常に「0」の位置を確認してから 測定に入るようにする。 ・p. 94 の「1 km 860m + 2 km 170m」のような複数単位の計算の場合では、「1m86 c m + 2m17 c m」のような複数単位の計算と同じように考えて、単位をそろえて計算したり 同じ単位同士で計算したりすれば良いことに気付くようにする。 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>【単位をmにそろえる】</p> $1 \text{ km } 860 \text{ m} = 1860 \text{ m}$ $2 \text{ km } 170 \text{ m} = 2170 \text{ m}$ <p>だから</p> $1860 \text{ m} + 2170 \text{ m} = 4030 \text{ m}$ $4030 \text{ m} = 4 \text{ km } 30 \text{ m}$ </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top; border-left: 1px dotted black;"> <p>【同じ単位同士を計算する】</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: right;">km</td> <td style="text-align: right;">m</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">186</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">+ 2170</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">-----</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">4030</td> <td></td> </tr> </table> </td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・p. 95 では、1 kmの長さの量感が育ちにくいので、学区地図で1 kmに相当する ものさしを校門から自由に当てたり、通学路などで歩数を測ったりしてみる。4年で1 km²の量感を育てるのに役立つ。 	<p>【単位をmにそろえる】</p> $1 \text{ km } 860 \text{ m} = 1860 \text{ m}$ $2 \text{ km } 170 \text{ m} = 2170 \text{ m}$ <p>だから</p> $1860 \text{ m} + 2170 \text{ m} = 4030 \text{ m}$ $4030 \text{ m} = 4 \text{ km } 30 \text{ m}$	<p>【同じ単位同士を計算する】</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: right;">km</td> <td style="text-align: right;">m</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">186</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">+ 2170</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">-----</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">4030</td> <td></td> </tr> </table>	km	m	186		+ 2170		-----		4030	
<p>【単位をmにそろえる】</p> $1 \text{ km } 860 \text{ m} = 1860 \text{ m}$ $2 \text{ km } 170 \text{ m} = 2170 \text{ m}$ <p>だから</p> $1860 \text{ m} + 2170 \text{ m} = 4030 \text{ m}$ $4030 \text{ m} = 4 \text{ km } 30 \text{ m}$	<p>【同じ単位同士を計算する】</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: right;">km</td> <td style="text-align: right;">m</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">186</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">+ 2170</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">-----</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">4030</td> <td></td> </tr> </table>	km	m	186		+ 2170		-----		4030				
km	m													
186														
+ 2170														

4030														
4年	上巻⑧	・6月号参照												
	倍の計算 (1) 同様単元 K10月⑨ T9月 倍の見方	<p>◎単元のめあて(例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">一方の数が もう一方の数の何倍になるかを考えて、せつ明しよう。</div> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの量を基にして、どの量を比べるかを明確にする。(比べるもの) ÷ (基にするもの)で何倍かを求めたり この関係を使って問題を解いたりすることが、できるようにする。 												

5年	上巻⑧	・6月号参照
	倍の計算 同様単元 K5月④ T6月 小数の倍	<p>・4年では、倍の意味を「いくつ分」から「いくらに当たる」と捉え直すことで、「整数÷整数」の計算の意味も計算の仕方も理解し、説明できるようにしてきた。</p> <p>本単元では、図や数直線を用いて、小数のかけ算は、「400円の2.3に当たる大きさ」のように、小数を用いた「いくらに当たる大きさ(比べる大きさ)かを求める計算」と捉え直すことができるようにする。小数のわり算は、「0.3mが240円のリボン1mの代金」のように小数を用いた「1に当たる大きさ(基にする大きさ)を求める計算」と捉えたり、「0.6mは、0.4mの1.5に当たる」のように4年と同じ小数を用いた「いくらに当たる(何倍・割合)かを求める計算」と捉えたり、できるようにする。</p> <p>【小学校学習指導要領(平成29年告示)解説算数編 p.190～191A(4)ア(ア), (5)参照】 【HP「倍の意味」の捉え直しによる4年「小数を用いた倍」から5年「×小数」・「÷小数」への指導 参照】</p>
6年	⑥ 資料の整理 同様単元 K9月⑨ T9月⑦	<p>◎単元のめあて(例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>目的に合わせて資料を代表する値・表・グラフを適切に選び、散らばりの様子を考えて、説明しよう。</p> </div> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「現在の6年1組は、15年前の6年1組より体力が低下したか調べよう。」等の明確な目的の分析に関わる数学的活動を通して、次の事項が身に付くようにすることが大切である。 ・p.86～91では、代表値(平均値・中央値・最頻値)の意味や決め方を理解し、資料の特徴や目的に応じて代表値が適切に選択できるようにする。 ・p.92～97では、資料の値をドットプロットから度数分布を表す表やグラフに表して、分布の様子や特徴が捉えられるようにする。なお、柱状グラフと棒グラフの違いを理解し、説明できるようにする。また、階級の幅を変える等の中学校1年の柱状グラフの扱いとの違いにも留意する。 <p>【小学校学習指導要領(平成29年告示)解説算数編 p.306～312D(1)参照】</p>
<p><お知らせと お願い></p> <p>「算数教育ネットワーク岡山」でHPを検索して、毎月の「算数授業のめあてとポイント」や「算数教育 情報コーナー」等をご覧いただき、日々の実践に役立ててください。</p> <p>なお、これらについてのご意見ご質問および「算数教育ネットワーク岡山」の活動への参加希望は seiden_atmark_po.harenet.ne.jp まで Mail でお知らせ下さい。(_atmark_を@に直して下さい。)</p>		